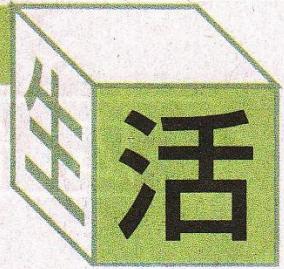


©東京新聞



当院で訪問診療を受ける患者さんの多くは八十歳以上の高齢者で、いろいろな病気をお持ちです。認知症患者では八割が別の疾患を持ち、最も多いのが高血圧症です。

血圧は測定時の環境に左右されます。よくあるのが、白衣姿を見て血圧が上がることです。在宅診療でも医師が測ると高めに出る場合があります。「デイサービスでは低いのに、先生の前だと高い」と言われたりします。

高齢者の高血圧

普段の記録が役立つ

そこで、当院では普段の記録を診療の参考にします。血圧測定は医療行為ではないので、施設の職員や家族など、だれが行っても構いません。きちょうめんな家庭では、朝、昼、晩の記録があり、それをもとに薬も調整できます。普段の測定はとても重要なのです。



スタッフが今日の調子を尋ねる

また、訪問入浴で「血圧がどの程度なら入浴させていいでしょうか」と聞かれることがあります。当院では、多少高めでも入浴が問題になったことはありません。体調に変わりのないなら、むしろ、入浴によるリラクゼーション効果を重視しています。

それでは、高齢者の場合、血圧の目安はどれくらいでしょうか。高齢になると、収縮期血圧、すなわち最高血圧が上がりがやくなります。動脈硬化で血管の弾力がなくなるためと考えられますが、若い人の基準をあてはめると、ほとんどの方が高血圧になります。

当院では、上腕測定で上が一五〇mmHg、下が九〇mmHgを目安に、これ未満なら良好にコントロールできていると考えています。もちろん、高血圧には慢性腎臓病や心不全などを合併していることが多いので、それに見合った薬剤を選ぶ必要もあります。

(川崎高津診療所院長)

次回は四月二十日掲載